「プロボノ活動」で、セカンドキャリアも、新たな販路も見えてきた❶

経験豊かな中高年人材を活かす舞台の多様化

改正「高年齢者雇用安定法」がこの4月に施行され、職業年齢の長期化が必然となってきており、大企業では従業員、中でも中高年社員に対し、副業の解禁や、グループ外への出向、プロボノなど、「越境体験」と言われる「新しい世界で自らの力量を試す機会」を与える取り組みが増えてきている。

「プロボノ」とは、ラテン語で、各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動であるが、最近、大企業では従業員の能力開発研修として導入する事例が目立ち始めている。主な活動舞台は、地方を中心とした中小企業が多いと聞く。

プロボノにチャレンジした動機は

大手マスコミで30年にわたり取材活動一筋で頑張ってこられた井上律さんは「長年同じ仕事しかしてこなかったので全く別の業界を体験してみたい。様々な業界から参加されるメンバーとの交流を通じて、自分のセカンドキャリアを探るきっかけを掴みたい」と参加動機を語った。

大手食品会社から転職し、現在は大手医薬品MRの営業課長として活躍中の池田頼彦さんは「毎日充実していますが、10年間同じ職種を続けており、固まってしまった視野を拡げたい。会社でキャリア研修を受講したのもきっかけになった」と語る。

定年後研究所も、職業年齢の長期化に伴い、中高年社員が自ら未知の分野へ挑戦する「越境体験」を推奨しており、お二人のプロボノ活動に大きな関心を寄せた。

プロボノにチャレンジされた井上律さん（左）と池田頼彦さん（右）

お二人のプロボノの受入先は

お知りあいから「プロボノ」の話を聞いて、「たんかんの宣伝になったら御の字」との軽い気持ちで受け入れたと述懐していたのは、奄美サンファームの戸田敏博さん。

その甘さから根強い人気を博する「たんかん」であるが、斑点だらけの外形の悪さや、その認知度の低さから、都市部のスーパーであまり見かけない。

戸田さんは、「これまでは、奄美での生産プロセスの改善に集中してきて、たんかんの美味しさを消費者に届けるPR努力は怠りがちだった」と語る。

そんな奄美サンファームと、井上さん、池田さんとの初めての出会いは、新型コロナ下での2021年2月であった。

「プロボノ」を通じて、一見結びつかない「キャリア人生」と「たんかんPR」にどんな変化が生じたのか、次号で紹介しよう。

池口武志（いけぐち・たけし）
一般社団法人定年後研究所理事所長
1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク常務執行役員、キャリアコンサルタント（国家資格）としても活動中。

一般社団法人定年後研究所
人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイトhttps://www.teinengo-lab.or.jp「お問いあわせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーをご覧になりたい方は、上記サイトをご覧ください。